

## 学習指導案添削の実際

第62回（令和6年度）都小道研究発表会 検証授業（事業部）

### 第2学年 道徳科学習指導案（一次案）

江戸川区立南小岩小学校 第2学年1組27名

学級担任 田中 健三郎

授業者 大樂 美保子

（小金井市立小金井第一小学校主任教諭）

1 主題名 **友だちと助け合う** B〔友情、信頼〕

コメントの追加 [忠後1]: good

#### 2 ねらいと教材

（1）ねらい 迷いながらも困っている友達の気持ちを考えて行動したゆっきの気持ちを考えることを通して、友達と仲良くし、助け合おうとする心情を育てる。

（2）教材 「ゆっきとやっち」（文部省「小学校読み物資料とその利用」平成4年）

#### 3 主題設定の理由【指導観】

（1）ねらいとする道徳的価値について【価値観】

家族以外で、友達深い関わりをもつ存在である。友達と互いに認め合い、支え合うことで、豊かな人間性を育み、成長することができる。また、親密な人間関係を築くことで、友達に理解してもらい喜びを知り、友達への信頼関係をもつことができるようになる。学校生活において、児童はさまざまな学習活動や日常生活での共通体験を通し、友達と共に活動する楽しさや喜びを求めるようになる。他者の立場や気持ちを尊重できるようになり、人と仲良くすることや協力し合うことなど、社会の中で生きるうえで大切な人間関係が育成される。低学年の段階では、幼児期の自己中心性から脱しておらず、友達の立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることがなかなか難しい。よって、友達と一緒に活動して楽しかったことや助け合ってよかったことを想起させながら、友達と仲良くすることの大切さについて考えさせていきたい。

（2）児童の実態について【児童観】

コメントの追加 [忠後2]: 学級担任に取材し実態を整理すること。

本教材を通して、よりよい友達関係を築いていくために、友達の気持ちをよく理解し、楽しく、仲良く、助け合っていこうとする心情を育みたい。

（3）教材について【教材観】

本教材は、児童の日常生活で起りえる友達同士の関わりが描かれている。競争する時にゆっきの気持ちを考えず、自慢していたやっちが、ゆっきの優しさに触れ、友達のよさを実感していく。また、ゆっきは嫌な思いをしたにもかかわらず、迷いながらも困っているやっちを助けたことによって、やっちとの仲を深めていく。本教材を通して、友達の気持ちを考えて、互いに助け合うことの良さについて、感じ取らせていきたい。

#### 4 研究主題と関連した指導の工夫

（1）教材提示の工夫

紙芝居、絵カードなどを活用し、「間」に留意するなどして教材の世界に没れるよう教材提示する。

教材提示前に登場人物の関係を紹介し、ゆっきの気持ちを考えながら教材を読むように指示してから、教材提示を行う。

(2) 座席の工夫

コの字型の座席にし、互いが目を見て話し合うことができるようにする。導入、教材提示、終末では座席を前向きにし、自己と向き合えるように配慮する。

5 学習指導過程

	学習活動（○主な発問・予想される児童の発言）	◇指導上の留意点 ★評価
導入	1 価値への導入 ○どんな友達が好きですか。 ・一緒に遊んだりして、楽しい友達。 ・困ったときに助けてくれる友達。 ・優しい友達。	◇机をコの字型の座席にし、中央に児童を集める。 ◇初めに、友達について想起させ、価値への方向付けを図る。
展開	2 教材「ゆっきとやっち」を読み、話し合う。 ○やっちに「ゆっきがいくらがんばったって、ぼくのほうがはやいさ。」と言われたゆっきは、どんな気持ちになったでしょうか。 ・なんか嫌な感じだなあ。 ・頑張りたいのに、悲しくなるよ。 ・やっちは速く飛べて、うらやましい。  ○苦しそうな顔をして言ったやっちを見て迷ったゆっきは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・自慢してきて、嫌な気持ちになったから、置いていこう。 ・意地悪をされたし、先に行って勝とう。 ・心配だから、一緒にいようかな。 ・助けなきゃ。  <u>○ほほにあたるさわやかな風を感じながら並んで飛んでいるゆっきとやっちは、一体どんなお話しをしていたでしょう。</u> ・やっち、安心してね。もう大丈夫。 ・ゆっき、今度はぼくも助けるね。 ・友達っていいな。ずっと仲良くしようね。	◇登場人物とその関係を紹介し、ゆっきの気持ちに注目して読むよう指示する。 ◇臨場感ある教材提示に努める。 ◇教材提示後、座席に戻る。  ◇児童の発言を全て聞いてから、キーワードで板書をする。  ★困っているやっちを助けたいと思うゆっきの気持ちを考える。（態度・発言）  ◇役割演技をし、友達の大切さ、助け合うことの大切さに気付いたやっちの気持ち、助け合うことのすがすがしさを感じたゆっきの気持ちに共感する。
終末	4 教師の話を聞く。 (1) 主題に関わる教師の体験談を聞く。  (2) 自己を見つめる。 ○ゆっきとやっちのように、友達となかよく助け合って良かったなと思ったことはありますか。 ・困っているときに、助けてくれた。 ・泣いたときに心配してくれたり、励ましてくれたりして、友達がいて良かったと思った。	□座席を前向きにする。  □自己の振り返りにおいて、児童自身の体験を想起しやすいよう、教師の説話を先に行う。 □ワークシートに記入する時間は8分設ける。  ★自己をみつめ、友情について考えを深めている。

コメントの追加 [忠後3]: トル

コメントの追加 [忠後4]: トル

コメントの追加 [忠後5]: 何と言ったのか？

コメントの追加 [忠後6]: こんなことを書いてもあまり意味がない。

役割演技の進め方や指導上の留意点などを簡潔に書いておく授業で役立つ。

「道徳科学学習指導案作成(超)×3入門」レッスン⑩参照

コメントの追加 [忠後7]: 学習のまとめをする

↓ **改善指導案**

第62回（令和6年度）都小道研研究発表会 検証授業（事業部）

**第2学年 道徳科学習指導案**

江戸川区立南小岩小学校 第2学年1組27名

学級担任 田中 健三郎

授業者 大樂 美保子

（小金井市立小金井第一小学校主任教諭）

1 主題名 友だちと助け合う B〔友情、信頼〕

2 ねらいと教材

1. ねらい 困っている友達の気持ちを考えて行動したゆっきの気持ちを考えることを通して、友達と仲良くし、助け合おうとする心情を育てる。
2. 教材 「ゆっきとやっち」（文部省「小学校読み物資料とその利用」平成4年）

3 主題設定の理由【指導観】

（1）ねらいとする道徳的価値について【価値観】

家族以外で、友達深い関わりをもつ存在である。友達と互いに認め合い、支え合うことで、豊かな人間性を育み、成長することができる。また、親密な人間関係を築くことで、友達に理解してもらい喜びを知り、友達への信頼関係をもつことができるようになる。学校生活において、児童はさまざまな学習活動や日常生活での共通体験を通じ、友達と共に活動する楽しさや喜びを求めるようになる。他者の立場や気持ちを尊重できるようになり、人と仲良くすることや協力し合うことなど、社会の中で生きるうえで大切な人間関係が育成される。低学年の段階では、幼児期の自己中心性から脱しておらず、友達の立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることがなかなか難しい。よって、友達と一緒に活動して楽しかったことや助け合ってよかったことを想起させながら、友達と仲良くすることの大切さについて考えさせていきたい。

（2）児童の実態について【児童観】

本学級の児童は、困っている友達を助けたり、悲しんでいる友達に寄り添ったりするなど、友達思いの児童が多い。とは言っても、まだ自己中心的な言動からけんかをする場面は多く見られるが、すぐに仲直りするなど、全体的に仲良しの児童が多い。

また、特別支援学級との交流などを通して誰とでも仲良くしようとする様子が見られる。

3学期のこの時期は、さらに学級内の友情が深まっていく時期でもある。本教材を通して、よりよい友達関係を築いていくために、相手の気持ちを考え、仲良く、助け合おうとする心情を育みたい。

（3）教材について【教材観】

本教材は、児童の日常生活で起える友達同士の関わりが描かれている。競争する時にゆっきの気持ちを考えず自慢していたやっちが、ゆっきの優しさに触れ、友達のよさを実感していく。また、ゆっきはやっちに自慢されたにもかかわらず、迷いながらも困っているやっちを助けたことによって、やっちとの仲を深めていく。

本教材を通して、友達の気持ちを考え、互いに助け合うことの良さについて、感じ取らせていきたい。

4 研究主題と関連した指導の工夫

（1）教材提示の工夫

紙芝居、絵カードなどを活用し、「間」に留意するなどして教材の世界に没れるよう教材提示する。

教材提示前に登場人物の関係を紹介し、ゆっきの気持ちを考えながら教材を読むように指示してから、教材提示を行う。

(2) 自己を見つめるための工夫

自己を振り返る際に、児童が自己の体験を想起しやすいように教師の説話を先に行う。

5 学習指導過程

	学習活動（○主な発問・予想される児童の発言）	◇指導上の留意点 ★評価
導入	<p>1 価値への導入を行う</p> <p>○学級生活で友達と助け合っている様子の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている友達に寄り添っている。</li> <li>・友達に優しくしている</li> <li>・友達を助けている。</li> </ul>	<p>◇コの字型の座席にし、中央に児童を集める。</p> <p>◇担任から聞いた学級での助け合う姿を紹介する。</p> <p>◇「友達」のうるわしい姿を想起させ、価値への方向付けを行う。</p>
展開	<p>2 教材「ゆっきとやっち」を読み、話し合う。</p> <p>○やっちに「ゆっきがいくらがんばったって、ぼくのほうがはやいさ。」と言われたゆっきは、どんな気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なんか嫌な感じだなあ。</li> <li>・頑張りたいのに、悲しくなるよ。</li> <li>・やっちは速く飛べて、うらやましい。</li> </ul> <p>○迷っていたゆっきは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我慢してきて、嫌な気持ちになったから、置いていこう。</li> <li>・意地悪をされたし、先に行ってやっちに勝とう。</li> <li>・心配だから、一緒にいようかな。</li> <li>・先に行けと言われたけど、助けなきゃ。</li> </ul> <p><u>○ほほにあたるさわやかな風を感じながら、並んで飛んでいるゆっきとやっちは、一体どんなお話をしていたのでしょうか。（役割演技）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっち、安心してね。もう大丈夫。</li> <li>・ゆっき、今度はぼくも助けるね。</li> <li>・友達っていいな。ずっと仲良くしようね。</li> </ul>	<p>◇登場人物とその関係を紹介し、ゆっきの気持ちに注目して読むよう指示する。</p> <p>◇臨場感のある範読に努める。</p> <p>◇教材提示後、座席に戻る。</p> <p>◇児童の発言を全部聞いてから、キーワードで板書をする。</p> <p>◇苦しそうな顔をしたやっちに、「ぼくのことはいいから、先に行けよ。」と言われた場面を押さえてから、第2発問をする。</p> <p>★困っているやっちを助けたいと思うゆっきの気持ちを考えている。（態度・発言）</p> <p>◇2：2で向き合って、役割演技を行わせる。</p> <p>◇ゆっき役から始め、交互に自由に会話を続けるよう促す。</p> <p>◇役割交代は必ず行う。</p>
終末	<p>3 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 主題に関わる教師の体験談を聞く。</p> <p>(2) 自己を見つめる。</p> <p>○ ゆっきとやっちのように友達となかよくできて良かったなと思ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っているときに、助けてくれた。</li> <li>・泣いたときに心配してくれたり、励ましてくれたりして、友達がいて良かったと思った。</li> </ul>	<p>□座席を前向きにする。</p> <p>□児童自身の体験を想起しやすいよう、教師の説話を先に行う。</p> <p>★自己をみつめ、信頼・友情について考えを深めている。（ワークシート）</p> <p>□余韻をもって終わりにする。</p>